

予防接種の基礎知識

宇野 信吾

KM バイオロジクス株式会社 研究開発推進部 MA 課

日本における予防接種制度は昭和 23 年に罰則付きの義務接種として始まった。予防接種（ワクチン）により対象患者は減少し、感染症の脅威から免れるメリットが得られる一方で、ワクチン接種による重篤な副反応を生じるケースが生じた。患者数が減少するとワクチン接種による副反応がクローズアップされ、予防接種後の健康被害が社会問題化し、司法への訴えも生じた。それに対して、健康被害救済制度の設立、義務から努力義務、集団接種から個別接種へ、予防接種後副反応報告の法制化など、行政面での対応やワクチン品質の向上などの対応が講じられてきた。

しかしながら、新たなワクチンの開発や定期接種化は、諸外国から大きく遅れ、日本ではいわゆる「ワクチンギャップ」が生じた。その対応として諸外国からのワクチン導入や任意接種ワクチンの定期接種化などの検討が慎重かつスピードを上げて進み、定期接種ワクチンの種類は諸外国に近づくレベルとなった。加えて、予防接種の機会を逸しないように、複数ワクチンの同時接種の推進、接種間隔の上限撤廃、異なるワクチンの接種間隔の見直しなど、接種が受けやすい体制づくりにも進みつつある。

また、製造・供給サイドにより、1 回接種分のシリンジ製剤の導入、ワクチンの種類ごとに基調色の統一、製造番号シールの導入、保管温度の見やすさ向上への工夫など間違い防止のための対応も強化されつつあり、平時での予防接種環境は整備が進んでいると考えられる。

本セクションでは、このような状況の概要を解説する。

【略歴】

- 1984 年 3 月 長崎大学工学部工業化学科終了
- 1984 年 4 月 財団法人 化学及血清療法研究所 入所
ワクチン学術部門所属
- 1990 年 4 月～社団法人 細菌製剤協会（現：日本ワクチン産業協会）
法規委員会、PR 委員会、総務委員会で活動
- 2018 年 7 月 KM バイオロジクス株式会社へ転籍
研究開発本部にてメディカルアフェアーズ部門